

をば爰に安置し、本山清淨華院實主より天聽へ達せられ、生蓮社良往露滴上人をば開山となし、妙香山善導寺と號し、從三位藤原基定卿親筆の額を賜ふ。其額丈一尺六寸横四尺三寸にして如左。

善
導
寺
清淨華院末寺
寬永十七年八月三日
從三位藤原基定書之

裏書 宗齋の言葉をすくにあらはして

末の世までも照す鏡を

右藥師如來の尊像は、甚だ靈佛にして、靈驗も殊にいぢるし。また彼の白髭の尊面は、前田家より俳優家波吉宮門へ預けられしゆゑ、三十三年目毎の開帳の節、當寺開基小西宗齋の子孫小西某とて本末兩家あり。此の兩家の者波吉

方へ參向し、彼の尊面を納めたる唐櫃を荷ひける舊例にて、開帳中其の朝彼の兩人に山上町の者指添ひ、波吉方へ迎に參り、夕景また兩人荷ひ、山上町の者指添ひ波吉方へ送り届け、る古例なりしとぞ。然るに明治十六年十二月十五日、彼の藥師堂の後より出火し、寺中残らず焼亡す。此の時藥師如來の尊像、および彼の勅額と呼び來れる藤原基定卿の親筆なる扁額、并に舊藩中の古書簡等悉く焼失したるが、翌年山上町の協力にて、今の佛閣を再建せり。

○山上新町

改作所舊記に載せたる元祿十二年九月の書面に、山上新町肝煎ウツリ与合頭の名見たり。年代摘要に、享保十五年町絳家數頭振山上新町百十七軒。とあり。此の頃に至りては既に家數多かりし事知られけり。町會所舊記に、文政四年二月郡地のヶ所町支配と成る時、山上村領新町は山上町と町名を立て、四町有之に付、東西南北を付け唱ふべしとありて、此の時山上町へ合併なしたり。今は山、上町一丁目より四丁目までとす。

○山下町

文政四年二月郡地のヶ所町支配と成る時、卯辰村領山上下町は、山下町と町名を建てたり。山下は山上に對したる町名なるが故に、ヤマシタと呼べり。此の町名于今存せり。

○寶藏寺町

文政四年二月郡地のヶ所^(町)支配に成る時、卯辰村領山上下町は山下町、同寶藏寺より春日鳥居迄之内裏通りは寶藏寺町とありて、此の時町名を立てたり。今此の町名を廢し、山上町へ屬せしめたり。

○寶藏寺廢址

三箇屋版六用集に、東本願寺道場寶藏寺山、上町。とありて、眞宗の道場なりしかど、安政二年十一月十六日東本願寺別院より出火し、悉く焼亡す。然る處寶藏寺住持付火の由露顯し、翌三年下口刑法場に於て、磔の刑罪に處せられ、寺は破却せらる。其の寺地は尤地子地なるに依りて、破却後町家の邸地となし、家屋を建てたりとぞ。

○一里塚

正保四年幕府へ進達ありし加能越三州道程調書に、柳橋村より山上村まで拾九町四十八間、一里山則山、上村に有之。

と載せたる一里山は、即ち一里塚の事也。改作所舊記に見ゆる、延寶二年の往還道造間數付に、山上町はづれより竹橋町はづれまで三里三町二十五間。とあり。右山、上町はづれとあるも、山上町の町はづれにある一里塚よりの間數なるべし。龜尾記に云ふ。山上町の多賀の下邸より春日町へ出づる處に一里塚あり。是より上口は野町端の一里塚まで、各一里にして定町あり。但し里塚は其道の險難により長短あり。或は皮多・藤内に竿除ありといへり。平次按ずるに、一里塚は烈祖成續に、慶長九年二月四日世子下令使、築東海東山北陸三道里塚。と見ゆ、續王代一覽にも、慶長九年甲辰二月東海・東山・北陸の郡吏に命じて一里塚を築かせらる。とあり。家忠日記には、此年二月四日台徳院殿鈞命に依りて、東海道及び越後海道に各一里塚を築かしめ給ふ。御家人是を監す。五月下旬に至りて成就す。とあり。されば此の時築きたるは、徳川家の所領地のみなる如く聞ゆれど、慶長九年の頃は既に我が前田家も徳川家に隨身して、彼の家風に隨ひ領國の政事を執行はれしかば、彼の下知に依りて、加賀・越中兩國の往還道なる里塚も、此の時築きし